













# 学位論文審査結果報告書

報告番号	北里大 甲 第1029号	氏 名	玉 城 武 範																
論文審査担当者	<table border="0"> <tr> <td>(主査)</td> <td>北里大学教授</td> <td>厚田幸一郎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(副査)</td> <td>北里大学教授</td> <td>松原 肇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(副査)</td> <td>北里大学教授</td> <td>吉山友二</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(副査)</td> <td>北里生命科学研究so教授</td> <td>清原寛章</td> <td></td> </tr> </table>			(主査)	北里大学教授	厚田幸一郎		(副査)	北里大学教授	松原 肇		(副査)	北里大学教授	吉山友二		(副査)	北里生命科学研究so教授	清原寛章	
(主査)	北里大学教授	厚田幸一郎																	
(副査)	北里大学教授	松原 肇																	
(副査)	北里大学教授	吉山友二																	
(副査)	北里生命科学研究so教授	清原寛章																	
<p>〔論文題目〕</p> <p>地域医療の問題解決に向けた保険薬局の実践的研究</p> <p>〔論文審査結果の要旨〕</p> <p>地域における健康支援拠点として期待される保険薬局において、薬剤師の担う役割は多い。地域に特異的な医療問題に対応するためには、それぞれの地域にある保険薬局が大きな責任と役割を担っている。地域における医療問題の解決には、それぞれの地域で大きく異なる特異的な背景に応じた解決が求められる。沖縄県のインフルエンザウイルス感染症は、全国とは異なる時期の流行や全国の流行のピークをこえる患者数がたびたび観測されている。インフルエンザウイルス感染症は全国どの地域の保険薬局でも対応が求められるが、通年にわたってインフルエンザウイルスにさらされる機会の多い地域における保険薬局とその薬剤師は、保健衛生の観点からその医療問題に対しどのように解決していくかが重要な課題といえる。今回、地域に特異的な医療問題の解決に向けた保険薬局が果たす役割の一例として、沖縄県に特異的なインフルエンザウイルス感染症の発生に基づく問題解決に向けた保険薬局の実践的研究が検討された。</p> <p>保険薬局において医療従事者介したインフルエンザウイルス感染症の感染拡大は重要な課題である。服薬指導で患者と至近距離で向き合う形になる保険薬局では、薬剤師自身の感染リスクだけでなく、薬剤師を介した患者への感染リスクも高いと考えられる。感染防止対策の基本である手指衛生についてまず対処しなければならない。初めに、通年にわたってインフルエンザウイルスにさらされる機会が全国に比べ相対的に多い沖縄県で、保険薬局の医療従事者を対象とした手指衛生の実施状況と手指衛生による手荒れに関して検討した。</p> <p>通年にわたってインフルエンザにさらされる機会の多い地域の保険薬局とその薬剤師が、病原体の伝播を防ぐ観点から、医療従事者が手指衛生ガイドラインを実践するうえで保険薬局での手指消毒または手洗いは適正な認識で手指衛生が実施されていたものの、手荒れが起</p>																			

きている状況が確認できた。

今回、石けん製剤を用いて手指衛生を行った医療従事者は、アルコールベースの速乾性手指消毒薬を用いた時と比べ手指の乾燥を感じる事が少なかった。頻繁な手洗いが必要とされる地域において、手指の乾燥が気になる保険薬局の医療従事者は石けん製剤での代替による手指衛生の遂行が有用であることが示唆された。

本研究で用いた手洗い石鹸バブルガードはインフルエンザウイルス H1N1 に対して抗ウイルス効果が報告されている。適切な石けんと流水による手洗いは手指衛生として有効で、臨床現場の状況に合わせて速乾性擦式手指消毒薬または石けん製剤を選択し手指衛生を継続することも重要だと考えられる。本研究において示唆された内容を研究の協力薬局以外の沖縄県内の保険薬局にもフィードバックし、すべての薬局において石けん製剤を適宜使用するよう情報提供された。

次に、インフルエンザ感染症のハイリスク患者として注意が必要であり、さらに治療として、特段注意が必要な社会的弱者に対する保険薬局でのアプローチを検討するため、安全性確認の中で保険薬局での妊婦に対する薬剤師の疑義照会に関して検討した。

今回の調査では、多くの薬剤師が妊婦に禁忌薬剤が処方された経験があり、さらに半数の薬剤師は妊婦が医師に妊娠を伝えていない実態が浮き彫りとなった。また、処方医に対し疑義照会を行った後、処方薬の変更または中止例があったことは、薬剤師の介入によって不適切な処方薬剤の回避に寄与したと考えられる。通年にわたってインフルエンザウイルスにさらされる機会の多い地域において、医療機関におけるインフルエンザ感染症を含む感染症に対する禁忌薬物の投与を未然に防ぐためにも、保険薬局において薬剤師が妊娠の有無を直接患者に確認し、疑義照会を行うことは必須である。本研究成果は沖縄県薬剤師会にフィードバックし、広く薬剤師会会員薬局へ周知された。

通年的にインフルエンザウイルス感染症にさらされる機会が多い地域においては、相対的に日常生活に対するインフルエンザウイルスの関与は高まると考えられ、感染予防に重点を置く意義は大きい。地域の中でインフルエンザ感染症に対し予防的な役割を果たす可能性を模索するため、これまでに報告されている機序とは異なるウイルスの標的となる宿主細胞への直接的な効果が期待されるアンブロキソール塩酸塩の抗インフルエンザ効果に関して検討した。

MDCK 細胞をアンブロキソールで処理した後インフルエンザウイルスに感染させた結果、特定の濃度の範囲ではあるが、感染後 24 時間以内のウイルス抑制効果が示された。今回の検討において、アンブロキソールに宿主細胞とウイルスの感染成立にかかわる初期の過程において抗インフルエンザ効果を持つ可能性が示された。アンブロキソールは、医療用医薬品・一般用医薬品として既に繁用されており、既知の抗インフルエンザ効果に合わせて、本研究で示唆された効果を合わせて考慮すると、ウイルス感染前後において生体内の直接的・間接的な感染防御機構を期待した実用性の高い使用方法の検討が期待され、通年的にインフルエンザウイルス感染症にさらされる機会が多い地域住民に対して、感染予防としての臨床応用の実現に向け寄与するものと考えられる。

以上、本研究において、地域に特異的な医療問題の解決に向けた保険薬局が果たす役割の一例として、沖縄県に特異的なインフルエンザウイルス感染症の発生を取り上げ、二、三の医療上の問題解決に向けた保険薬局の実践的アプローチを示すことができた。沖縄のインフルエンザウイルス感染症がもたらす医療問題や住民の健康増進に対し、保険薬局の薬剤師が介入することの意義を示す一つの成果と考えられる。

また、成果に基づき保険薬局の薬剤師が臨床で実践することで、地域住民の健康増進に少なからず寄与できるモデルを提示できたことは、地域における健康支援拠点としての保険薬局に大きく貢献するものとする。

よって、本研究の論文を提出した玉城武範氏に、博士（臨床薬学）の学位を授与することは妥当であると判定した。